

HIV/AIDSの発生動向について

エイズの原因と感染経路

後天性免疫不全症候群（以下「エイズ」とする。）は、ヒト免疫不全ウイルス（*human immunodeficiency virus / HIV*）という病原体による感染症で、性行為による感染、針刺し事故等による血液感染及び出産、授乳による母子感染があります。その内、ほとんどは性行為による感染となっています。予防のためには、不特定多数との性交渉を控える、コンドームを正しく使用する必要があります。

症状と治療

HIVに感染後、治療せずにいると

(1) 急性 HIV 感染症

2～6週間後に HIV の体内増殖により、発熱、リンパ節腫脹等の急性 HIV 感染症を発症します。数週間で消失するため、見過ごされることが多くあります。

(2) 無症候期（HIV 感染者）

自覚症状のない時期が数年間続きます。自覚症状がないため、知らないうちに他の人に感染させる可能性があります。

(3) エイズ発症（AIDS 患者）

次第に免疫が落ち、体重減少や咳、下痢等の症状が出て、本来なら自分の免疫力で押さえることのできる様々な病気を発症するようになります。

一昔前、エイズは不治の病とされてきましたが、現在は、抗 HIV 薬によってウイルスの増殖を抑え、免疫力を維持させてエイズ発症を防ぐことができるようになりました。また、できるだけ早期に治療を開始することで治療の高い効果が現れるとともに、大切な人に感染させてしまうことを防ぐことができます。

沖縄県の発生動向（1987年～2020年暫定値）

本県では、1987年以降、2020年までの HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた累積報告数は、432件となっています。年別では2014年の33件が最も多く、その後減少傾向がみられたものの、2020年は、前年を4例上回る、23件（HIV 感染者数13件、AIDS 患者数10件*2020年暫定数）の報告がありました。

りました。

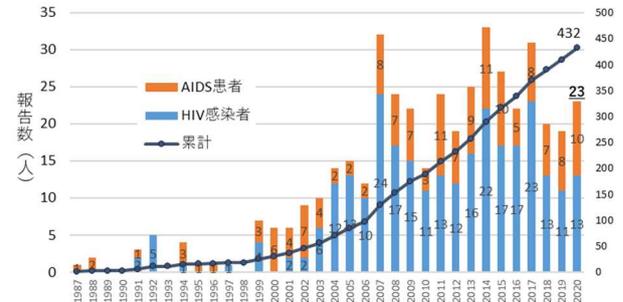


図1. HIV感染者/AIDS患者 年別報告数

また、人口10万対における報告数で本県は、毎年全国の上位に位置し、2019年は HIV 感染者報告数は全国5位、AIDS 患者報告数は全国2位となっています。

表1 新規HIV感染者・AIDS患者報告数人口10万対上位自治体2019

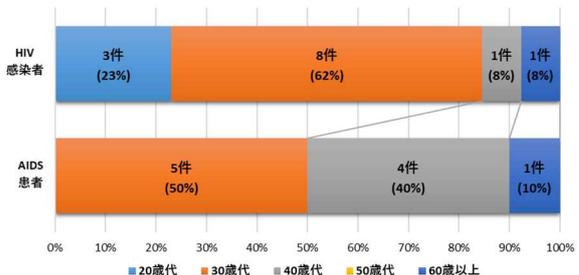
a HIV感染者人口10万対			b AIDS患者人口10万対		
1位	東京都	2.406	1位	福岡県	0.568
2位	大阪府	1.203	2位	沖縄県	0.551
3位	愛知県	0.874	3位	東京都	0.510
4位	福岡県	0.862	4位	滋賀県	0.424
5位	沖縄県	0.757	5位	大阪府	0.386

※厚生労働省エイズ動向委員会：令和元年エイズ発生動向年報より

沖縄県の2020年 HIV/AIDS 報告数（暫定値）

2020年の報告届出数23件の内訳です。

年齢階級別では、HIV 感染者は、20歳代から30歳代で11件（85%）でした。一方、AIDS 患者は年齢層が上がり30歳代から40歳代で9件（90%）を占めています。



性別は、すべて男性で、女性の報告はありませんでした。

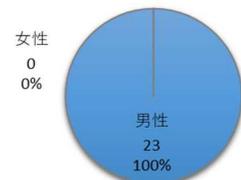


図3. 2020年性別報告数

